

地方独立行政法人川崎町立病院
平成 28 年度業務実績の評価結果

平成29年11月9日

地方独立行政法人川崎町立病院評価委員会

目 次

I はじめに	…1
II 年度評価の方法	…1
III 地方独立行政法人川崎町立病院平成 28 事業年度の業務実績に関する評価結果	
第1 全体評価	…3
第2 大項目評価	
1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	…4
2 業務運営の改善及び効率的に関する事項	…4
3 財務内容の改善に関する事項	…5
4 その他業務運営に関する重要事項	…6
5 予算(人件費の見積りを含む。)収支計画及び資金計画	…6
6 短期借入金の限度額	…6
7 重要な財産を譲渡し、又は担保に供しようとするときは、その計画	…6
8 余剰金の使途	…6
9 その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項	…6
第3 参考資料	
(1) 小項目評価の集計結果	…7
(2) 平成 28 年度収支計画額及び決算額	…8

I はじめに

地方独立行政法人川崎町立病院(以下「法人」という。)は、川崎町立病院の業務を継承して平成 23 年 4 月に新たに独立行政法人として発足したものである。

今年度の法人の業務実績は、平成 27 年 4 月に川崎町長が定めた第2期中期目標(平成 27 年度～30 年度)の 28 年度(平成 28 年 4 月～29 年 3 月)達成度についての評価である。

当地方独立行政法人川崎町立病院評価委員会では、法人から提出された「地方独立行政法人川崎町立病院事業実績報告書」に基づき、第2期中期計画を視野にいれながら平成 28 年度の業務実績の評価を実施した。

地方独立行政法人川崎町立病院評価委員会 委員名簿

	氏 名	職 名
委員長	堀 江 達 男	町民代表
副委員長	松 岡 久 代	町議会議員
委 員	向 野 守 人	医師
委 員	石 田 智 恵 美	福岡県立大学教授
委 員	石 原 口 敬 一	町民代表

II 年度評価の方法 (P7 第 3 小項目評価の集計結果参照)

評価委員会において、地方独立行政法人川崎町立病院の平成 28 年度事業年度に係る業務実績に関する評価を行った。

(評価の基本方針)

- (1) 評価は、中期目標・中期計画の達成状況等を踏まえ、法人の業務運営等について多面的な観点から総合的に評価を行い、評価を通じて法人の継続的な質的向上に資するものとする。
- (2) 評価を通じて、法人の中期目標・中期計画の達成に向けた取り組み状況を町民に分かりやすく示すものとする。

評価は、項目別評価と全体評価を行い、項目別評価では、法人による自己評価をもとに、業務実績に関する法人からのヒアリング等を通じて、法人による自己評価の妥当性や年度計画に照らし合わせた達成状況を確認した。また全体評価では項目別評価結果等を踏まえつつ、中期計画等の達成状況について総合的な評価を行った。

なお、項目別評価と全体評価の方法は、以下のとおりである。

(小項目評価)

法人が、年度計画を小項目ごとに次の 5 段階で自己評価を行った業務実績報告書に基づき、法人の自己評価と同様に 5 段階評価を行う。

- 5……年度計画を大幅に上回って実施している。
- 4……年度計画を上回って実施している。
- 3……年度計画を順調に実施している。
- 2……年度計画を十分に実施できていない。
- 1……年度計画を大幅に下回っている。

(大項目評価)

評価委員会において、小項目評価の結果特記事項の記載内容等を考慮し、大項目ごとに中期目標・中期計画の達成に向けた業務の進捗状況について、次の 5 段階による評価を行う。

- S……中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。
(評価委員会が特に認める場合)
- A……中期目標・中期計画の達成に向けて計画どおり進んでいる。
(すべての小項目評価結果が3～5)
- B……中期目標・中期計画の達成に向けておおむね計画どおり進んでいる。
(小項目評価結果が3～5の割合が9割以上)
- C……中期目標・中期計画の達成のためにはやや遅れている。
(小項目評価結果が3～5の割合が9割未満)
- D……中期目標・中期計画の達成のためには重大な改善事項がある。
(評価委員会が特に認める場合)

(全体評価)

- (1) 評価委員会において、項目別評価の結果を踏まえ、年度計画及び中期計画の全体的な進捗状況について、記述式による評価を行う。
- (2) 全体評価においては、法人化を契機とした病院改革の取り組み(法人運営における自立性・機動性の発揮、財務内容の改善など)を積極的に評価することとする。

Ⅲ 地方独立行政法人川崎町立病院平成 28 事業年度の業務実績に関する評価結果

第1 全体評価

1 評価結果

平成 28 年度の業務実績に関する評価は、「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項」の大項目についてはC評価(中期目標・中期計画の達成のためにはやや遅れている)、「業務運営の改善及び効率化に関する事項」の大項目についても C 評価(中期目標・中期計画の達成のためにはやや遅れている)、そして「財務内容の改善に関する事項」の大項目についてもC評価(中期目標・中期計画の達成のためにはやや遅れている)と、大項目すべてにおいてC評価が妥当と判断した。

2 全体評価に当たって考慮した事項

(1)主な取り組みや特色ある取り組み

平成 28 年度の主な取り組みや特色ある取り組みが下記のとおり行われた。

① 診療面では地域の医療機関との連携のもと、患者に満足して頂ける良質な医療の提供と、快適な医療環境の充実に取り組んだ。また、医療の質及び安全性の確保としては、老朽化が進んだ各種機器の更新、高齢者のニーズに対応し骨密度測定装置を新規購入した。また、他に法令・行動規範の遵守をはじめ、医療安全管理指針、リスクマネジメントマニュアル等の策定とインシデントレポートの事例報告促進・院内感染防止対策の徹底を行った。

② 人材確保の面では、看護師に退職や病欠等で欠員が出たが、採用試験の実施及び人材派遣会社の紹介等も活用し欠員補充する事が出来た。教育研修面では、医師1名が嚥下機能評価及び摂食機能療法のための専門的な知識や技術取得を目的とした研修を修了し、医療技術部で放射線技師1名が第三種放射線取扱主任講習を修了した。また、がん患者に関するリハビリテーションの研修を、医師、看護師、理学療法士、作業療法士各1名が受講し修了した。

③ 経営状況として、年間目標との比較で1人当たりの入院診療単価が 1,126 円上回ったが、年間 84.7 名と 1.3 名下回った。外来は診療単価が 1,663 円上回ったものの、患者数が1日平均 21.1 名と大幅に下回った。支出面では、目標比で経費は 452 千円、材料費は 19,713 千円下回り、人件費は 6,092 千円増加した。平成 28 年度決算は、経常利益は 410 千円のプラスであったが、当期純利益は△7,762 千円となり、2年ぶりの赤字となった。

(2)評価に当たっての意見、指摘等

町立病院においても、地域医療構想の関連で計画を検討中とのことであるが、地域医療構想は病床の機能(高度急性期、急性期、回復期、慢性期)ごとに、平成

37(2025)年の医療需要と病床の必要量を推計し、あるべき医療提供体制の姿を明らかにするとともに、その実現に必要な施策を示すものである。平成 25 年度より、地域の医療機関は地域医療構想実現に向けてすでに動いている。病床の機能分化と連携という形が非常に重要になってきており、それに向かって田川市立病院や社会保険田川病院は努力されている。今後そういった病院に患者が集中していく可能性が予想され、そうなった時に町立病院がどういった機能をもたせていくかを、明確にしておかなければ立ち遅れていくのではないかと思われる。また、町立病院は川崎町だけではなく田川地区全体としての役割を果たす病院となるために、今後、どの医療機能を担うのかを有識者及びコンサルタント等をまじえて検討する必要がある。

第2 大項目評価

1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

(1) 評価結果

○評価(中期目標・中期計画の達成のためにはやや遅れている。)

(2) 判断理由

評価において、14小項目中12小項目が評価の3～5で、その割合は12/14と9割未満となるため評価Cと判断した。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

下記の事項について、意見を附する。

①入院患者への薬剤管理指導の充実について

年間薬剤管理指導が3件で呼吸器疾患患者に吸入薬のデバイスの使用方法を中心に指導を行っている。年間目標では5件としていたが、人力的また時間的余裕が無かったために目標を達成することができなかつたようだが、今後の体制づくりを望む。

②院内感染防止対策の実施について

月例開催の院内感染対策委員会で問題点を協議、改善することにより、職員の感染防止対策に対する意識の向上を図っているようであるが、今後は院内感染防止対策を確実に実施するとともに、より一層の強化を望む。

③災害時における医療協力について

災害マニュアルの整備や防災避難訓練を開催しているが、町及び地域の医療機関を含めた連携体制づくりや、院内組織の詳細について、今後検討する必要がある。

2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

(1) 評価結果

○評価(中期目標・中期計画の達成のためにはやや遅れている。)

(2) 判断理由

評価において、9小項目中6小項目が評価の3～5で、その割合は6/9と9割未満となるため評価Cと判断した。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

下記の事項について、意見を附する。

①事務部門の人材育成について

看護加算のもらい過ぎでその返還(約 3,300 千円)が発生したことはたいへん遺憾に思われる。今後このようなことがおこらぬよう、職員の育成に努めてもらいたい。

②収益の確保について

経常収益は410千円の黒字であったが、入院患者の減少や外来患者の減少という状況については、経営努力の強化を図っていただきたい。加えて、地域医療構想の実現に向けた計画を早急に検討する必要があると思われる。

③人事評価制度の構築について

川崎町職員の人事評価制度を参考にすることは良いと思うが、病院職員の雇用形態は、法人・派遣・嘱託・パートと多様であるため、病院独自の人事評価制度の導入に向け検討することを求める。

3 財務内容の改善に関する事項

(1) 評価結果

C評価(中期目標・中期計画の達成のためにはやや遅れている。)

(2) 判断理由

評価において、2小項目中1小項目が評価の3～5で、その割合は1/2と9割未満となるため評価Cと判断した。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

下記の事項について、意見を附する。

①将来の設備投資に向けた財源の確保について

平成28年度決算において、当期純利益△7,762千円となったため、累積積立金を取り崩し同額の補填を行った。経常収益は410千円の黒字であったものの、特別損失があったために最終決算では赤字になった。特別損失の要因は、非常勤医師の源泉徴収の不足分を10ヶ月分遡って支払ったものである。(8,173,840円) 源泉徴収率を誤って算出したのが原因であったようだが、今後このような事態がおこらぬよう、細心の注意をはらっていただきたい。

4 その他業務運営に関する重要事項

(1) 評価結果

C評価(中期目標・中期計画の達成のためにはやや遅れている。)

(2) 判断理由

昨年に続き、オーダーリングシステムの導入について、収支状況等をみながら検討した結果、導入が見送られたことにより、評価をCと判断した。

5 予算(人件費の見積りを含む。)収支計画及び資金計画

(1) 評価結果

C評価(中期目標・中期計画の達成のためにはやや遅れている。)

(2) 判断理由

当期純利益は△7,762 千円となり、2年ぶりの赤字決算となったことにより、評価をCと判断した。

6 短期借入金の限度額

(1) 評価結果

A評価(中期目標・中期計画の達成に向けて計画どおり進んでいる。)

(2) 判断理由

年度計画で想定された短期借入金を要する資金不足の状況は発生せず、事業資金は自己資金で賄ったため評価をAと判断した。

7 重要な財産を譲渡し、又は担保に供しようとするときは、その計画

(1) 評価結果

平成28年度は、該当がないため評価の対象外とした。

8 余剰金の使途

(1) 評価結果

平成28年度は、該当がないため評価の対象外とした。

9 その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項

(1) 評価結果

平成28年度は、該当がないため評価の対象外とした。

第3 参考資料
 (1) 小項目評価の集計結果表

大項目	中項目	小項目	細目	H28 評価	
第1 住民に対して提供するサービス その他の業務の質の向上に関する事項		(1) 救急医療の取り組み		① インフォームドコンセントの充実 ② 入院患者への薬剤管理指導の充実	4 4 2
		(2) 患者に満足される医療の提供		① 院内感染防止対策の実施 ② 医療安全対策についての実施	3 4
		(3) より安心で信頼できる医療の提供			4
		(4) 快適な医療環境の提供			3
		(5) 質の高い医療の提供			3
		(6) 法令・行動規範の遵守		① 法令・行動規範の遵守 ② 医薬品管理体制の充実 ③ 患者・家族の意見要望への対応 ④ 診療情報開示等の適切な対応	3 3 4 3
		(7) ボランティアとの協働によるサービス向上			3
		(8) 町の保健・福祉行政との連携			4
		(9) 災害時における医療協力			2
第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項	1 医療スタッフの確保、専門性及び医療技術の向上	(1) 医療スタッフの確保		① 医師の人材確保 ② 看護師及び医療技術職員等の人材確保 ③ 育児支援等による人材確保 ④ 医師、看護師、医療技術部門の人材育成 ⑤ 事務部門の人材育成	4 3 4 4 2 3
		(2) 専門性及び医療技術の向上			4
		(1) 経営マネジメントの強化			3
		(2) 収益の確保			2
第3 財務内容の改善に関する事項	2 経営管理機能の充実	(3) 費用の節減			4
		(4) 人事評価制度の構築			2
		(1) 運営費負担金の縮減に向けた経営基盤の確立			3
		(2) 将来の設備投資に向けた財源の確保			2

(2) 平成28年度 収支計画額及び決算額

(単位 千円)

区 分	計 画 額	決 算 額 (A)	差 額	(A)のうち町からの 繰 入 金
収益の部	1,229,050	1,139,401	△ 89,649	65,178 ①
営業収益	1,144,110	1,086,387	△ 57,723	38,094
医業収益	1,106,016	1,048,293	△ 57,723	
運営費負担金収益	38,094	38,094	0	38,094
資産見返補助金戻入	0	0	0	
資産見返物品受贈額戻入	0	0	0	
その他営業収益	0	0	0	
営業外収益	84,940	53,014	△ 31,926	27,084
運営費負担金収益	47,063	37,779	△ 9,284	27,084
運営費交付金収益	24,000	0	△ 24,000	0
その他営業外収益	13,877	15,235	1,358	
臨時利益	0	0	0	0
費用の部	1,209,500	1,138,990	△ 70,510	
営業費用	1,139,075	1,075,942	△ 63,133	
医業費用	1,091,115	1,029,285	△ 61,830	
給与費	587,113	574,738	△ 12,375	
材料費	327,578	288,346	△ 39,232	
経費	131,124	123,655	△ 7,469	
減価償却費	39,000	36,420	△ 2,580	
研究研修費	6,300	6,126	△ 174	
一般管理費	47,960	46,657	△ 1,303	
営業外費用	70,425	63,048	△ 7,377	
臨時損失	0	8,174	8,174	
純利益	19,550	△ 7,763	△ 27,313	
目的積立金取崩額	0	0	0	
総利益	19,550	△ 7,763	△ 27,313	

上記の繰入金とは別に、企業債償還元金 81,371千円のうち町からの繰入金が②54,247千円ある。
したがって、町からの繰入金 は、119,425千円 (①+②) である。